

5 河川底生生物調査資料

(2河川各1地点、年2回)

調査概要

1.1 調査目的

本調査は、滝沢村における自然環境の実態を把握することを目的として、村内の河川における底生動物の現況を調査した。

1.2 調査日程

現地調査の日程を表 2-1に示す。

表 2-1 現地調査日程

現地調査時期	地点	巣子川-上流 (No. 7)	巣子川-下流 (No. 8)
	夏季		平成 18 年 8 月 25 日 (金)
冬季		平成 19 年 1 月 19 日 (金)	平成 19 年 1 月 19 日 (金)

1.3 調査対象地点

調査の対象は、河川水質調査業務の No. 7 (巣子川-上流) 地点、および No. 8 (巣子川-下流) 地点とした (以降、それぞれ「巣子川上流」「巣子川下流」と表記する)。

調査地点位置を 図 2-1に示す。

1.4 調査内容

調査内容を、表 2-2に示す。

表 2-2 調査概要

調査項目	調査回数	調査時期	調査方法
底生動物	2 回/年	・夏季 (8 月) ・冬季 (1 月)	・定量調査法 ・定性調査法



図 2-1 調査地点位置図

< 凡 例 >

調査地点位置 : ●

SCALE 1 : 50,000

《地点住所》

巢子川-上流 (No. 7) : 滝沢村滝沢字狼久保地内

巢子川-下流 (No. 8) : 滝沢村滝沢字巢子地内



2. 調査結果

2.1 確認種一覧

2回の調査で確認された底生動物は、巣子川上流で14目30科41種、巣子川下流で9目15科17種であった。確認種を表2-3に示す。

表2-3(1) 底生動物確認種一覧

目名	科名	種名	水質指標性	巣子川上流		巣子川下流	
				夏季	冬季	夏季	冬季
ウスムシ	サンカクアタムスムシ	ナミウスムシ	os	●	●	●	●
ニナ	カワニナ	カワニナ					●
	ミスツホ	コモチカワツホ		●	●		
モノアラガイ	サカマキガイ	サカマキガイ	ps			●	●
オキミズ	オキミズ	オキミズ科の一種		●	●		●
ナカミズ	イトミズ	イトミズ科の一種			●	●	
		ミズ綱の一種		●	●	●	●
咽蛭	イシビル	シマイシビル	αm		●		●
		イシビル科の一種		●		●	
ワラシムシ	ミスムシ	ミスムシ	αm	●	●		
ヨコエビ	ヨコエビ	ヨコエビ科の一種		●			
カゲロウ	フタオカゲロウ	ヒメフタオカゲロウ属の一種			●		
	コカゲロウ	コカゲロウ属の数種		●	●	●	●
	ヒラタカゲロウ	ユミモンヒラタカゲロウ	os	●			
		ナミヒラタカゲロウ	os		●		
		ヒメヒラタカゲロウ属の一種					●
	マダラカゲロウ	トウヨウマダラカゲロウ	βm		●		
	モンカゲロウ	フタシモンカゲロウ	os		●		
モンカゲロウ		βm	●	●			
トンボ	サエトンボ	ダビトサエ	βm		●		
		ダビトサエ属の一種		●			
	オニヤンマ	オニヤンマ	βm		●		
カワゲラ	カワゲラ	カミラカゲラ			●		
		カミラカゲラ属の一種		●			
		トウコウカワゲラ属の一種		●			
	オシカワゲラ	フサオシカワゲラ属の一種		●	●		
		オシカワゲラ属の一種		●			
アミカゲロウ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	os	●	●		
トビケラ	ヒゲナカカワトビケラ	ヒゲナカカワトビケラ	os				●
	シマトビケラ	コカシマトビケラ	βm		●	●	●
		ウルマーシマトビケラ	os	●	●	●	●
	ナカレトビケラ	ナカレトビケラ科の一種		●			
	ヤマトビケラ	ヤマトビケラ属の一種			●		
	トビケラ	ムラサキトビケラ			●		
	エグリトビケラ	エグリトビケラ科の一種		●			
	カクツツトビケラ	カクツツトビケラ属の数種		●		●	

(次ページに続く)

表 2-3 (2) 底生動物確認種一覧

目名	科名	種名	水質指標性	巢子川上流		巢子川下流		
				夏季	冬季	夏季	冬季	
ハエ	ガガンボ	Tipula 属の一種 TA			●			
		Tipula 属の一種 TB			●		●	
		Tipula 属の一種 TC					●	●
		Antocha 属の一種		●	●			
		Eriocera 属の一種 EB		●				
		Eriocera 属の一種 EC			●			
		Eriocera 属の一種 ED		●	●			
	ブユ	アシダラブユ属の一種			●			
		アシダラブユ属の数種		●		●		
	ユスリカ	モユスリカ属の一種		●				
		モユスリカ亜科の数種			●			
		エリユスリカ亜科の一種			●		●	
	ナガレアブ	ハマダラナガレアブ		●	●	●		
コウチュウ	ガムシ	マルガムシ亜科の一種		●				
	ホタル	ゲンジボタル	βm	●	●			
	ナガハナミ	ナガハナミ科の一種	os	●				
15 目	33 科	45 種	-	27 種	31 種	12 種	12 種	

※水質指標性は森下（1985）「指標生物学-生物モニタリングの考え方-」を参照し、未掲載種は空欄で示した。
os：貧腐水性（きれい）、 βm ： β -中腐水性（ややきたない）、 αm ： α -中腐水性（かなりきたない）、
ps：強腐水性（極めてきたない）を示す。

2.2 夏季調査

1) 定量調査結果（夏季）

定量調査は、25 cm×25 cmのコドラートを用い、早瀬の部分で採集した。

同定の結果、巢子川上流で6目11科12種を、巢子川下流で5目5科6種をそれぞれ確認した。

定量調査の結果を表 2-4 に、種類及び個体数の目別構成比を図 2-2 に示す。

表 2-4 定量調査結果－夏季

目名	科名	種名	出現状況(数字は個体数)	
			巢子川上流	巢子川下流
コナ	ミスヅホ	コモチカワツホ	376	
カガミス	トミス	トミス科の一種		2
		ミス綱の一種		1
咽蛭	イシビル	イシビル科の一種		3
カゲロウ	コカゲロウ	コカゲロウ属の数種	46	32
	ヒラタカゲロウ	ユミシヒラタカゲロウ	19	
カワゲラ	カワゲラ	カミラカワゲラ属の一種	2	
		トウコウカワゲラ属の一種	2	
	オナシカワゲラ	オナシカワゲラ属の一種	1	
トビケラ	シマトビケラ	コガタシマトビケラ		41
		ウルマシマトビケラ	11	1
ハエ	ガガソボ	Antocha 属の一種	1	
	ブユ	アシタラブユ属の数種	26	14
	ナカレアブ	ハマダラナカレアブ	1	
コウチュウ	ホタル	ゲンジホタル	2	
	ナカハナミ	ナカハナミ科の一種	3	
巢子川上流：6目11科12種 巢子川下流：5目5科6種			490 個体	94 個体

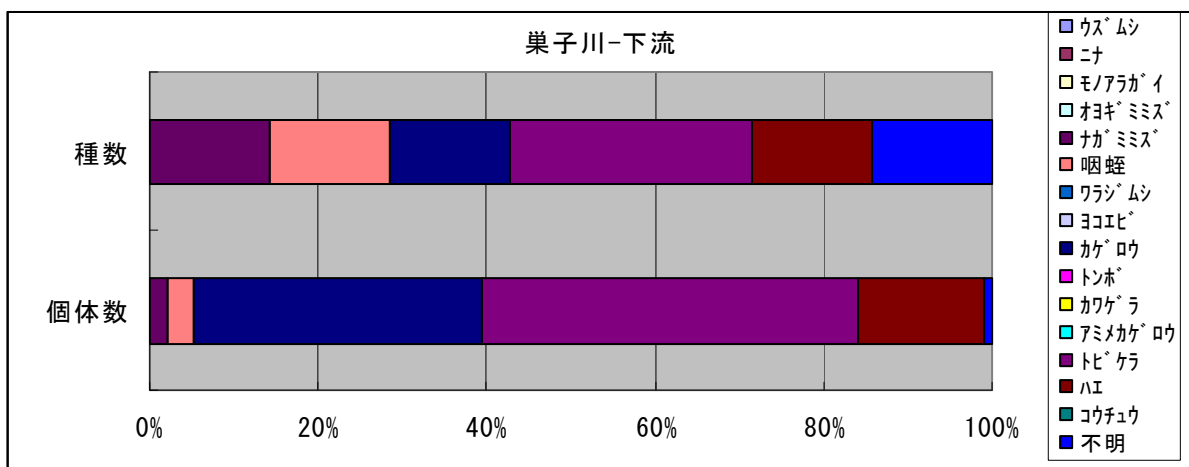
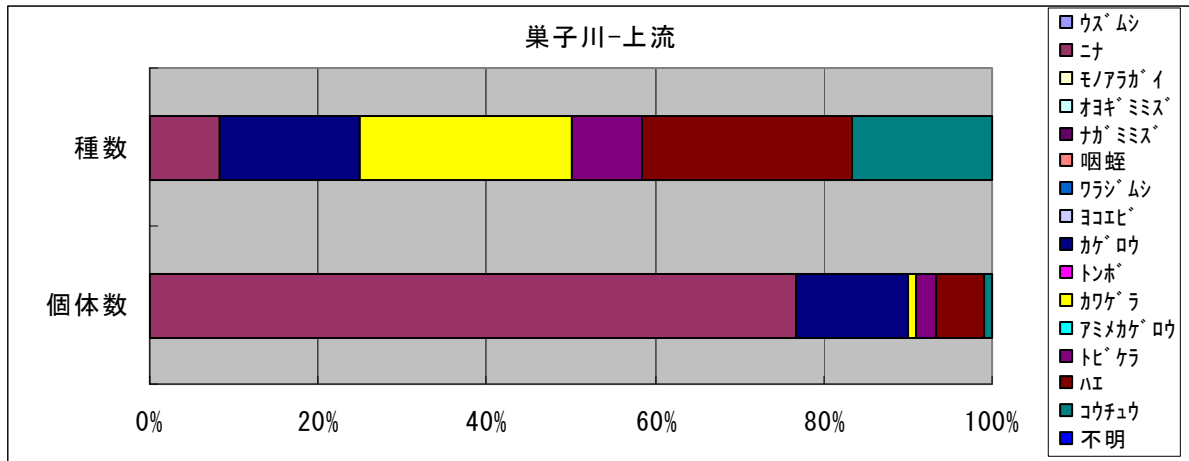


図 2-2 定量調査の種数・個体数別構成比—夏季

2) 定性調査結果（夏季）

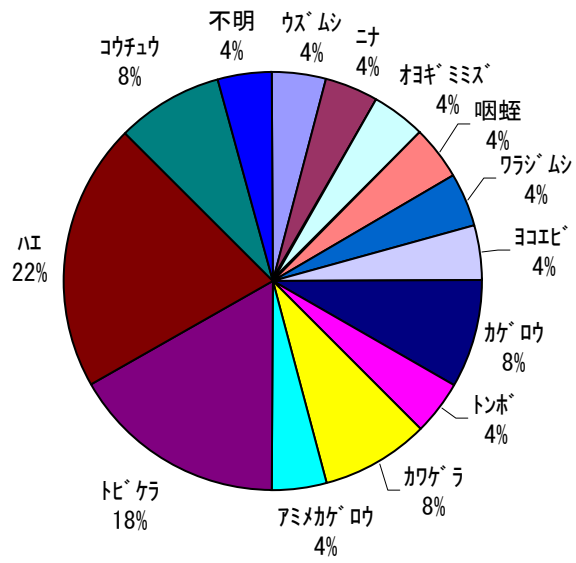
定性調査では、調査地点周辺のいろいろな環境でハンドネットによる採集を行い、巢子川上流で13目21科23種を、巢子川下流で6目10科12種の底生動物をそれぞれ確認した。定性調査の結果を表2-5に、種数の目別構成比を図2-3に示す。

表 2-5 定性調査結果－夏季

目名	科名	種名	出現状況	
			巢子川上流	巢子川下流
ウスムシ	サンカクアタマウスムシ	ナミスムシ	●	●
コナ	ミスツボ	コモチカワツボ	●	
モリアカイ	カマキカイ	カマキカイ		●
オキミズ	オキミズ	オキミズ科の一種	●	
		ミス綱の一種	●	●
咽蛭	イシビル	イシビル科の一種	●	●
ワラシムシ	ミスムシ	ミスムシ	●	
ヨコエビ	ヨコエビ	ヨコエビ科の一種	●	
カゲロウ	コカゲロウ	コカゲロウ属の数種		●
	ヒラタカゲロウ	ヒラタカゲロウ属の一種		●
		ユモンヒラタカゲロウ	●	
	モンカゲロウ	モンカゲロウ	●	
トンボ	サエトンボ	ダビトサエ属の一種	●	
カワゲラ	オナシカワゲラ	オナシカワゲラ属の一種	●	
		フオナシカワゲラ属の一種	●	
アミカゲロウ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	●	
トビケラ	エグリトビケラ	エグリトビケラ科の一種	●	
	カクツトビケラ	カクツトビケラ属の数種	●	●
	シマトビケラ	ウルマシマトビケラ	●	●
		コガタシマトビケラ		●
ナガレトビケラ	ナガレトビケラ科の一種	●		
ハエ	カガンボ	Eriocera属の一種 EB	●	
		Eriocera属の一種 ED	●	
		Tipula属の一種 TC		●
	ナガレアブ	ハマダラナガレアブ	●	●
	ブユ	アシマダラブユ属の数種	●	●
	ユスリカ	モンユスリカ属の一種	●	
コウチュウ	ガムシ	マルガムシ亜科の一種	●	
	ホタル	ゲンジホタル	●	
巢子川上流：13目21科23種 巢子川下流：6目10科12種			23種	12種

注) 定性調査における個体数は、定量的な調査ではないので、あくまでも参考値として示してある。

巢子川-上流



巢子川-下流

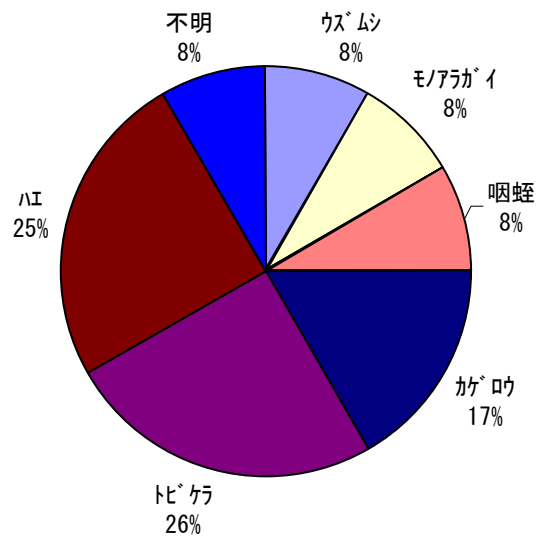


図 2-3 定性調査の種数構成比—夏季

2.3 冬季調査

1) 定量調査結果（冬季）

定量調査では、25 cm×25 cmのコドラートを用いて、夏季調査とほぼ同様の地点で採集を行った。同定結果では、巢子川上流で8目15科18種を、巢子川下流で4目6科8種を確認した。定量調査の結果を表 2-6 に、種類及び個体数の目別構成比を図 2-4 に示す。

表 2-6 定量調査結果－冬季

目名	科名	種名	出現状況(数字は個体数)	
			巢子川上流	巢子川下流
ウスムシ	サンカクアタムシ	ナムシ	2	
		ミス綱の一種	2	3
咽蛭	イシビル	シマイビル	3	7
カゲロウ	フタカゲロウ	ヒメフタカゲロウ属の一種	1	
	コカゲロウ	コカゲロウ属の数種		9
	ヒラタカゲロウ	ナミヒラタカゲロウ	1	
	マダラカゲロウ	トウヨウマダラカゲロウ	11	
	モンカゲロウ	フタジモンカゲロウ	2	
カワゲラ	カワゲラ	カミラカワゲラ	6	
	オナシカワゲラ	フサオナシカワゲラ属の一種	18	
アミカゲロウ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	5	
トビケラ	ヒゲナカカワトビケラ	ヒゲナカカワトビケラ		1
	シマトビケラ	コガタシマトビケラ	5	41
		ウルマシマトビケラ	8	1
	ヤマトビケラ	ヤマトビケラ属の一種	4	
ハエ	カガシホ	Tipula 属の一種 TC		1
		Antocha 属の一種	5	
	ブユ	アシマダラブユ属の一種	13	
	ユスリカ	モンユスリカ亜科の数種	1	
		エリユスリカ亜科の一種	3	6
コウチュウ	ホタル	ゲンジホタル	1	
巢子川上流：8目15科18種 巢子川下流：4目6科8種			91 個体	69 個体

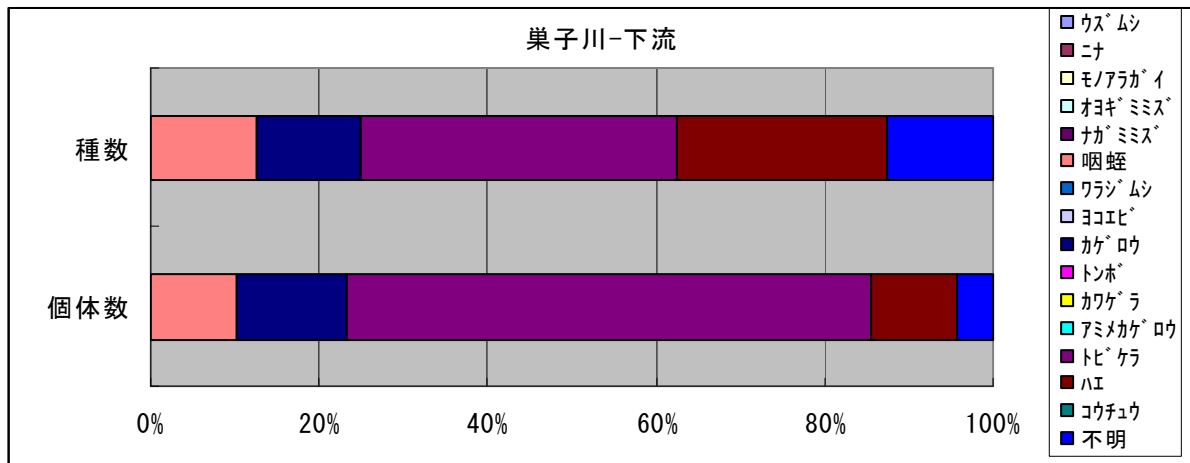
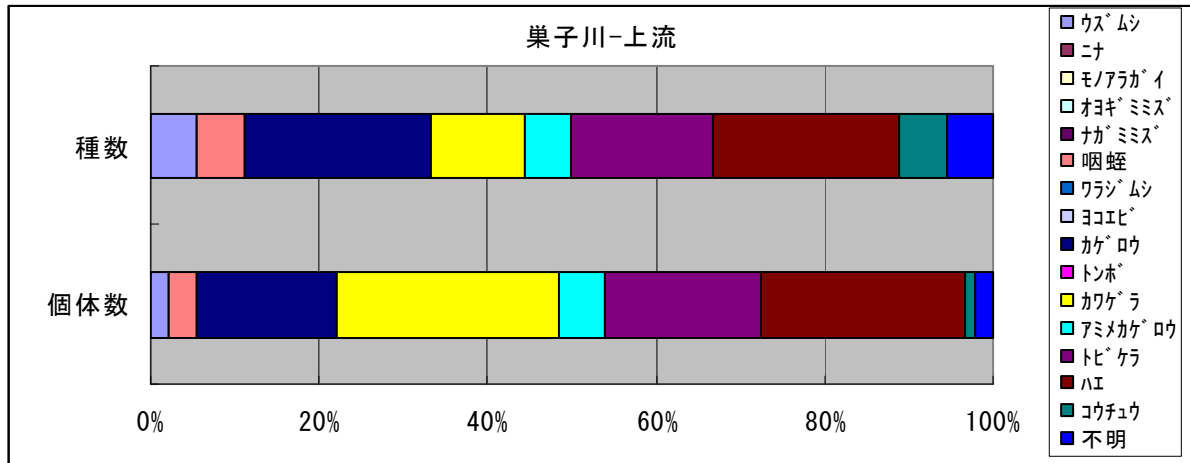


図 2-4 定量調査の種数・個体数構成比

2) 定性調査結果（冬季）

定性調査では、夏季とほぼ同地点で調査を実施し、巢子川上流において11目20科25種、巢子川下流において8目8科10種の底生動物を確認した。

冬季の定性調査における出現種一覧を表 2-7 に、目別種数構成比を表 2-5 に示す。

表 2-7 定性調査結果－冬季

目名	科名	種名	出現状況	
			巢子川上流	巢子川下流
ウスムシ	サシカアタムスムシ	ナミウスムシ	●	●
ニナ	カリニナ	カリニナ		●
	ミスツボ	コモチカツボ	●	
モノアラガイ	サカマキガイ	サカマキガイ		●
オヨギミズ	オヨギミズ	オヨギミズ科の一種	●	●
ナギミズ	イトミズ	イトミズ科の一種	●	
		ミズ綱の一種	●	●
咽蛭	イシビル	シマイシビル		●
ワラシムシ	ミスムシ	ミスムシ	●	
カゲロウ	フタオカゲロウ	ヒメフタオカゲロウ属の一種	●	
	コカゲロウ	コカゲロウ属の数種	●	●
	マダラカゲロウ	トウヨウマダラカゲロウ	●	
	モンカゲロウ	フタジモンカゲロウ	●	
モンカゲロウ		●		
トンボ	サエトンボ	ダビトサエ	●	
	オニヤンマ	オニヤンマ	●	
カリゲラ	カリゲラ	カミラカリゲラ	●	
	オナシカリゲラ	フサオナシカリゲラ属の一種	●	
アミカゲロウ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	●	
トビケラ	シマトビケラ	コカシマトビケラ	●	●
		ウルマーシマトビケラ	●	●
	ヤマトビケラ	ヤマトビケラ属の一種	●	
	トビケラ	ムラサキトビケラ	●	
ハエ	カガシホ	Tipula 属の一種 TA	●	
		Tipula 属の一種 TB	●	●
		Tipula 属の一種 TC		●
		Eriocera 属の一種 EC	●	
		Eriocera 属の一種 ED	●	
	ユスリカ	モンユスリカ亜科の数種	●	
ナガレアブ	ハマダナガレアブ	●		
巢子川上流：11目20科25種 巢子川下流：8目8科10種			25種	10種

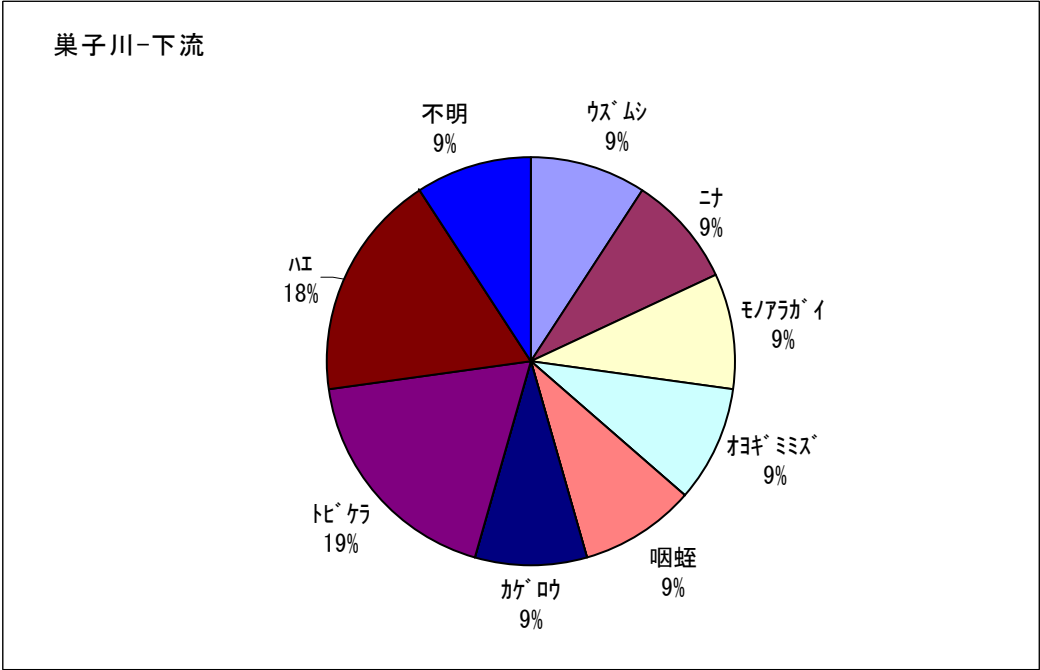
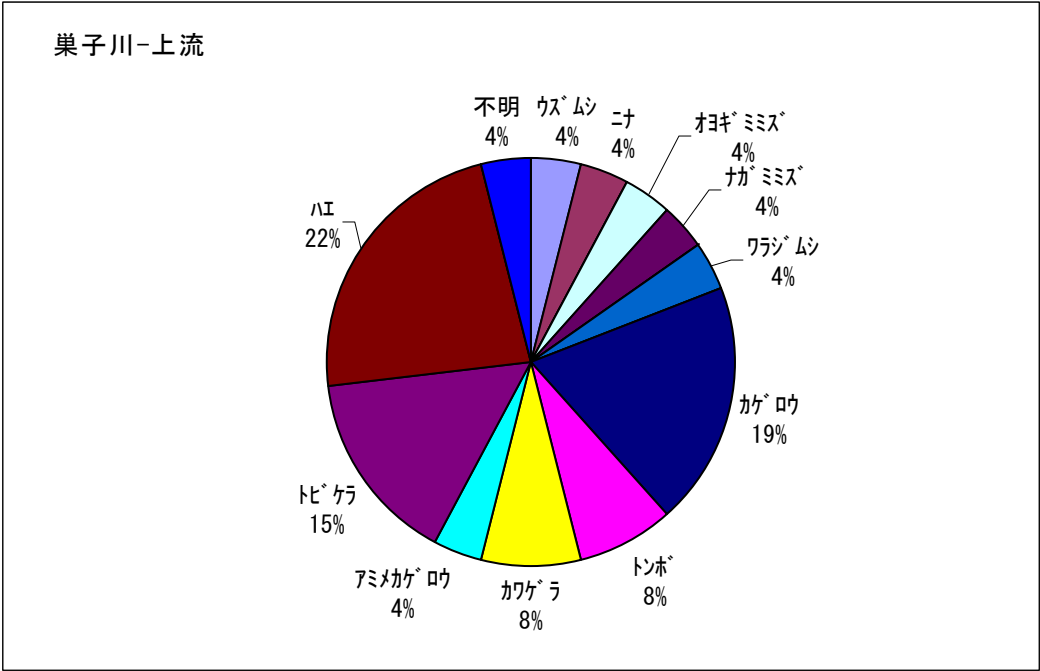


図 2-5 定性調査の目別種数構成比

3. 考察

3.1 生物学的水質判定法

1) Pantle u. Buck 法 (パントル・バック法)

調査結果を基に、生物学的水質判定法による水質判定を行った。今回の調査では、河川の汚濁階級指数と底生動物の出現多少度から水質を判定する「Pantle u. Buck 法 (パントル・バック法)」を用いた。判定方法の詳細は、参考資料「1.3 生物学的水質判定法」に示す。

巢子川上流及び巢子川下流における水質判定結果を、表 3-1に示す。また、pollution index (PI)の水質階級を表 3-2 に示す。

表 3-1 Pantle u. Buck 法による水質判定結果

調査地点		PI 値	水質判定結果	総合判定※
巢子川上流 (No. 7)	夏季	1.25	I. 貧腐水性 ^{ひんふすいせい}	β-中腐水性
	冬季	1.58	II. β-中腐水性 ^{ちゅうふすいせい}	
巢子川下流 (No. 8)	夏季	1.60	II. β-中腐水性 ^{ちゅうふすいせい}	β-中腐水性
	冬季	2.00	II. β-中腐水性 ^{ちゅうふすいせい}	

※同一地点で異なる結果となった場合は、水質階級の低いものを優先して判定する

表 3-2 pollution index (PI)の水質階級

PI	水質階級	記号
1.0 以上 1.5 未満	I. 貧腐水性 ^{ひんふすいせい} (きれい)	os
1.5 以上 2.5 未満	II. β-中腐水性 ^{ちゅうふすいせい} (ややきたない)	βm
2.5 以上 3.5 未満	III. α-中腐水性 ^{ちゅうふすいせい} (かなりきたない)	αm
3.5 以上 4.0 以下	IV. 強腐水性 ^{きょうふすいせい} (極めてきたない)	ps

巢子川上流 (No. 7)では、冬季のPI 値がβ-中腐水性 (ややきたない) となり総合判定でβ-中腐水性となったが、1.58と貧腐水性(きれい)に近い値であった。巢子川下流(No. 8)では、夏季、冬季ともにβ-中腐水性 (ややきたない) となった。巢子川下流 (No. 8) の採取地点は、上流から生活排水が流れ込んでいる。

同時に実施した水質分析の結果では、巢子川上流 (No. 7)の水質は大腸菌群数を除き河川AA 類型の環境基準を満足しており、巢子川下流 (No. 8) の水質は大腸菌群数を除き河川A 類型の環境基準を満足していた。

以上より、巢子川上流 (No. 7)、巢子川下流 (No. 8)ともに河川AA 類型からA 類型を、総合的に示すと考えられ、生物学的水質判定法による判定とほぼ合致した結果となっている。同時に実施した水質分析の結果を表 3-3 に示す。

表 3-3 生活環境の保全に関する環境基準（河川）と調査結果との比較

類型	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD) ／類型	浮遊物質 (SS) ／類型	溶存酸素 (DO) ／類型	大腸菌群数 ／類型	
結果	No. 7— 夏季	7.6	1/A A	1 未満/A A	8.6/A A	79000
	No. 7— 冬季	7.6	0.9/A A	1/A A	9.7/A A	1700
	No. 8— 夏季	7.4	1.2/A	5/A A	7.7/A A	330000
	No. 8— 冬季	7.5	1.5/A	2/A A	8.6/A A	2200
AA	6.5 以上 8.5 以下	1 mg/L 以下	25 mg/L 以下	7.5 mg/L 以上	50MPN/100mL 以下	
A	6.5 以上 8.5 以下	2 mg/L 以下	25 mg/L 以下	7.5 mg/L 以上	1000MPN/100mL 以下	
B	6.5 以上 8.5 以下	3 mg/L 以下	25 mg/L 以下	5 mg/L 以上	5,000MPN/100mL 以下	
C	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/L 以下	50 mg/L 以下	5 mg/L 以上	—	
D	6.0 以上 8.5 以下	8 mg/L 以下	100 mg/L 以下	2 mg/L 以上	—	
E	6.0 以上 8.5 以下	10 mg/L 以下	ゴミ等の浮遊が認められないこと	2 mg/L 以上	—	
備考						
1 基準値は、日間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）						
2 農業利用水点については、水素イオン濃度 6.0 以上 7.5 以下、溶存酸素量 5 mg/L 以上とする。						
3 MPN：最確数（培養検出された発酵管の本数から確率論的に算出された値）						

注、No. 7：菓子川—上流、No. 8：菓子川—下流を示す。

2) 環境省水環境部及び国土交通省河川局による判定法

今年度は、滝沢第二小学校参加により「川の生きもの調べ」が実施された（この時の調査結果は、参考資料 4. に示した）。

これとは別に、本調査においても川の生きもの調べで用いる判定法により水質判定を行った。「川の生きもの調べ」は、定量調査と定性調査の区別が行われない調査方法であるため、判定には定量調査における個体数と定性調査における個体数を足し合わせたものを用いた。

調査結果と水質階級の関係を表 3-2に、水質判定表を表 3-6 に示す。

この水質判定表では、合計得点が最も高い水質階級を調査地点の水質階級として判定する（複数の水質階級で同得点となった場合には、最も水質階級の数値の低い水質階級として読み取る）。表 3-8 によると、菓子川上流及び菓子川下流とも「水質階級 I」であることが読み取れた。

表 3-4 (1) 菓子川上流における調査結果と水質階級

目名	科名	種名	定量+定性	指標生物名	水質階級
ウスムシ	サシカアタムスムシ	ナウスムシ	3	ウスムシ	I
コナ	ミスツボ	コモチカワツボ	377	—	—
オキミズ	オキミズ	オキミズ科の一種	1	—	—
ナガミズ	イトミズ	イトミズ科の一種	1	—	—
		ミズ綱の一種	3	—	—
咽蛭	イシヒル	シマイシヒル	3	ヒル	III
		イシヒル科の一種	1	—	—
ワラシムシ	ミスムシ	ミスムシ	1	ミスムシ	III
ヨコヒ	ヨコヒ	ヨコヒ科の一種	1	—	—
カゲロウ	フタカゲロウ	ヒメフタカゲロウ属の一種	2	—	—
		コカゲロウ	コカゲロウ属の数種	47	—
	ヒラタカゲロウ	ユミモンヒラタカゲロウ	20	ヒラタカゲロウ	I
		ナミヒラタカゲロウ	1	ヒラタカゲロウ	I
	マダラカゲロウ	トウヨウマダラカゲロウ	12	—	—
	モンカゲロウ	フタジモンカゲロウ	3	—	—
モンカゲロウ		1	—	—	
トンボ	サナエトンボ	ダビトサナエ	1	—	—
		ダビトサナエ属の一種	1	—	—
	オニヤンマ	オニヤンマ	1	—	—
カワゲラ	カワゲラ	カミラカワゲラ	7	カワゲラ	I
		カミラカワゲラ属の一種	2	—	—
		トウコウカワゲラ属の一種	2	カワゲラ	I
	オサシカワゲラ	オサシカワゲラ属の一種	20	カワゲラ	I
		オサシカワゲラ属の一種	1	カワゲラ	I

(次ページに続く)

表 3-4 (2) 巣子川上流における調査結果と水質階級

目名	科名	種名	定量+定性	指標生物名	水質階級
アミカゲロウ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	6	ヘビトンボ	I
トビケラ	シマトビケラ	コガタシマトビケラ	6	コガタシマトビケラ	II
		ウルマシマトビケラ	20	—	—
	ナガレトビケラ	ナガレトビケラ科の一種	1	ナガレトビケラ	I
	ヤマトビケラ	ヤマトビケラ属の一種	5	ヤマトビケラ	I
	トビケラ	ムササビトビケラ	1	—	—
	エグリトビケラ	エグリトビケラ科の一種	1	—	—
	カクツツトビケラ	カクツツトビケラ属の数種	1	—	—
ハエ	カガシボ	Tipula 属の一種 TA	1	—	—
		Tipula 属の一種 TB	1	—	—
		Antocha 属の一種	6	—	—
		Eriocera 属の一種 EB	1	—	—
		Eriocera 属の一種 EC	1	—	—
		Eriocera 属の一種 ED	1	—	—
	ブユ	アシダラブユ属の一種	13	ブユ	I
		アシダラブユ属の数種	27	—	—
	ユスリカ	モンユスリカ属の一種	1	—	—
		モンユスリカ亜科の数種	2	—	—
		エリユスリカ亜科の一種	3	—	—
	ナカレアブ	ハマダラナカレアブ	2	—	—
コウチュウ	カムシ	マルカムシ亜科の一種	1	—	—
	ホタル	ゲンジホタル	4	ゲンジホタル	II
	ナガハナミ	ナガハナミ科の一種	3	—	—

注：この表は、本業務の夏季調査の結果であり、滝沢第二小学校生徒が実施した「川の生きもの調べ」の調査結果ではない

表 3-5 巢子川下流における調査結果と水質階級

目名	科名	種名	定量+定性	指標生物名	水質階級
ウスムシ	サカキカガイ	ナミウスムシ	1	ウスムシ	I
コナ	カワコナ	カワコナ	1	カワコナ	II
モノアラカガイ	サカキカガイ	サカキカガイ	1	—	—
オヨギミズ	オヨギミズ	オヨギミズ科の一種	1	—	—
ナギミズ	イトミズ	イトミズ科の一種	2	—	—
		ミズ綱の一種	5	—	—
咽蛭	イシビル	シマイシビル	8	ヒル	III
		イシビル科の一種	4	—	—
カゲロウ	コカゲロウ	コカゲロウ属の数種	42	—	—
	ヒラタカゲロウ	ヒメヒラタカゲロウ属の一種	1	ヒラタカゲロウ	I
トビケラ	ヒゲナカカトビケラ	ヒゲナカカトビケラ	1	—	—
	シマトビケラ	コカクシマトビケラ	83	コカクシマトビケラ	II
		ウルマシマトビケラ	3	—	—
カクツツトビケラ	カクツツトビケラ属の数種	1	—	—	
ハエ	ガガンボ	Tipula 属の一種 TB	1	—	—
		Tipula 属の一種 TC	2	—	—
	ブユ	アシマダラブユ属の数種	15	ブユ	I
	ユスリカ	ユスリカ亜科の一種	6	—	—
	ナガレアブ	ハマダラナガレアブ	1	—	—

※この表は、本業務の夏季調査の結果であり、滝沢第二小学校生徒が実施した「川の生きもの調べ」の調査結果ではない

表 3-6 水質判定表

		水質階級 I	水質階級 II	水質階級 III	水質階級 IV
巢子川上流	出現種数	11	2	2	0
	確認数上位3位種の出現数	2	0	0	0
	合計 (1.+2.)	13	2	2	0
巢子川下流	出現種数	3	2	1	0
	確認数上位3位種の出現数	1	1	0	0
	合計 (1.+2.)	4	3	1	0

4. 平成 18 年度 水生生物による水質調査 調査概要

4.1 調査概要及び調査方法

調査目的等については、「平成 18 年度 水生生物による水質調査実施要綱」によった。

4.2 調査の実施

調査は、滝沢第二小学校児童 36 名により実施された。

調査の実施日程等を、下記に示す。

調査日程	: 平成 18 年 8 月 25 日
調査団体	: 滝沢第二小学校児童
調査対象地点	: 市兵衛川（滝沢字土沢）地点

(平成 16 年度滝沢村内各種環境調査業務実施地点)